



<巻頭言>

『生』に寄り添う社会福祉 社大福祉フォーラム 2024

今年度の第62回社会福祉研究大会は、2024年6月22日（土）・23日（日）に、清瀬キャンパスの講堂・A棟・B棟・介護実習棟で、『『生』に寄り添う社会福祉～声なき声を受け止め、ともに歩む～』の大会テーマのもと開催された。

初日午前の基調講演Ⅰは、認定特定非営利活動法人スチューデント・サポート・フェイス代表理事の谷口仁史氏による「未来に向かって、もう一度、つながる～声なき声を受け止める、アウトリーチの支援実践を通じて～」で、2日目午前の基調講演Ⅱは、東京新聞特別報道部記者の木原育子氏による「新聞記者⇄社会福祉士の視点から『虫の目、鳥の目、魚の目』～福祉を複眼的に捉えるために～」であった。

谷口氏は、不登校・ひきこもりなど学校や社会で孤立する子ども・若者など目の前で困っている当事者に向き合い、対処療法だけではなくアウトリーチと重層的な支援ネットワークを活用した多面的アプローチで、手を取り合って社会課題の解決にはどうすれば良いのかについて、ご自身の豊富な体験と実績に基づき講演くださった。特に、多職種連携を機能させるために、多軸評価アセスメント指標として Five Different Positions（対人関係・メンタルヘルス・ストレス耐性・思考・環境）を開発し、エビデンスに基づく PDCA サイクルを実践している点は大変に示唆に富み、谷口氏がアウトリーチに関して実践と理論の両面で新しい福祉モデルを構築してきているといえよう。そして、基調講演の最後に、「死を意識するほどの葛藤を乗り越えるプロセスは、人としての成長にもつながります。思いやりや優しさを身につけて地域から支えられていると、今度は誰かのためという思いが出てきます。」というメッセージを私たちに伝えられた。

木原氏は、新聞記者をしながら本学の通信教育科で社会福祉士・精神保健福祉士の国家資格を取得しており、新聞記者とソーシャルワーカーとの複眼的な思考と実践に基づき講演くださった。新聞記者もソーシャルワーカーも、誰かの明日を変えるために動き、社会の媒介者として自分ではない誰かのために生きようとしている点や、いろいろな課題や問題を社会の「共有財産」としてどう生かすのか考えている点において違いはなく、社会課題を掘り起こして社会制度の不備や課題を変えるべくソーシャルアクションをとる、と木原氏はいう。そして、基調講演の最後に、「福祉を複眼的な視点で捉えていくために、『つなげる、伝える、創る』という、3つの『つ』を意識しながら、社会のミツバチの





ように、いろいろなところに飛んで行き、つながりあう仕組み作りをこれから続けていけきたい」とご自身の抱負を語られた。

谷口氏と木原氏は、現場を体験し実際に行動した上で知識や技術を身につける「経験」の大切さを、違う窓から違う言葉で講演くださり、両氏の基調講演は学生諸君とともに本学関係者一同にとって貴重な学びとなった。

また、分科会・自主企画分科会の各会場でも、多くの参加者が集い活発な報告と討論がなされた。自主企画分科会について、いくつか素描しておきたい。学長室多心型福祉連携センター企画の「環境・災害と福祉の予防的支援」では、入部寛教授・センター長が進行役を務め、予防の観点から環境・災害と福祉のあり方について情報を共有し議論がなされた。北川進講師が進行役を務めた自主企画「包括的支援を担うそれぞれのソーシャルワーク実践～社大から紡がれる新たな力～」は、準硬式野球部の卒業生たちが年代を超えて集い、卒業後にそれぞれの福祉分野でいかにソーシャルワーク実践を続けてきたかを報告し合うことで、社大の強みである同窓生のつながりや連帯感を参加者で共有し、社大というつながりから生まれる新たな力とは何かを探ることを目的としていた。この企画は、社大の学生時代に濃密な時間を共有することの大切さと、卒業後にも社大のネットワーク力を維持するためには一人ひとりがソーシャルワーク実践を確りと継続することが必要であることを示唆してくれた。さらには、下垣光教授と下垣ゼミ卒業生の自主企画「高齢者ソーシャルワークについて語ろう」も、社大の学生時代に高齢者福祉専門ゼミで濃密な時間を共有した卒業生たちが学内学会に集い、卒業後のソーシャルワーク実践を報告し合い議論し合うことで、高齢者ソーシャルワークの方向性を探る極めて有益な分科会であった。

準硬式野球部卒業生や下垣ゼミ卒業生の自主企画分科会のように、ホームカミング・デーの場として、さらには大学時代に時間を共に過ごした卒業生たちがソーシャルワークの実践活動に関する報告・意見交換・議論を行うことでソーシャルワーク実践力を相互に高め合う場として、学内学会を活用してくれることは、主催者としては望外の喜びである。

最後に、本年度の研究大会に参加くださった皆様とともに、大会開催準備に関し色々な形で支援くださった木村容子教授、菱沼幹男教授さらには学内学会役員並びに事務局の皆様に、心より御礼を申し上げます。次第である。

2025 年 1 月

日本社会事業大学社会福祉学会会長

日本社会事業大学学長

横 山 彰

